476

特244
593

産業日本の進路

經濟日本・果して世界と戰へるか
經濟界の將來はどうなる？

藤原銀次郎 著

11.1.29

定價十錢

今日の問題社版

始

特244
593

産業合理化論

[illegible]

目次

経済界の現狀及び將來……（三）
一、何が今日の好景氣を生んだか……（三）
二、世界に進出する日本商品……（八）
三、經濟界に反動恐慌は起らない……（一二）
四、まさに躍進の好機……（一五）
世界と戰ふ日本の産業精神……（一七）
一、アメリカに於ける資本家と勞働者との關係……（一七）
二、日本の資本家とアメリカの資本家……（二〇）
三、工場經營に於ける日本人の特徴……（二三）

四、日本人の持つ精神力……（二五）
五、日本主義で世界に進出せよ……（二七）
産業日本の進路……（三一）
一、躍進日本の産業費の擴充……（三一）
二、官吏の待遇改善と增稅……（三五）
三、滿支開發は國民の義務……（三九）

經濟界の現狀及び將來

一、何が今日の好景氣を生んだか

明治維新以來、今日まで、日本の經濟界は、一時非常に發展し好景氣を呈して、急に又その反動に出會つて、大に苦しんだと云ふ經驗を三度繰返しました。

第一回は、日清戰爭で戰費が國內に散布され、戰後は支那から二億の償金が入つた爲め、非常な好景氣となりましたが、忽ち二十九年より三十年にかけて大恐慌を來し、次に、明治三十七八年の日露戰爭には巨額の外債募集に依つて紙幣發行が增加し、經濟界の大膨脹となつて、戰爭中より戰後にかけて大繁昌を呈しましたけれども、之も二三年にして大恐慌を招きました。次は歐洲大戰當時で、これは世人の記憶に新なる如く、日本の貿易は大に有利となつて三箇年間に二十億の正貨が日本に落込んで來たやうなことで、我國は未曾有の好景氣となりま

したけれども、これは戰爭と云ふ原因から起つたので、戰爭が濟むと共に忽ち反動時期に入つて、急轉直下また大不景氣となり、而も大不景氣は約十年も續いたのであります。

かう云ふ經驗を吾々は經て居りますので、今回の好景氣も既に四年間續いたから、また例に依つて非常な不況となるのではなからうかと云ふ說があります。一應尤のやうでありますが、私の觀る所では全然違ふと思ふのであります。其理由は、

第一に今回の好景氣は戰爭とか、或は外債等によつて經濟界が膨脹したとか云ふ臨時的、一時的の原因から起つたのではなく、我國の工業を始め商業でも運輸業でも、或は銀行業でも保險業でも、明治初年以來、七十年間に非常に發達して、殆ど歐米の壘を靡するやうになり、特に工業の發達は目覺しいものがありまして、技術、設備、經營等總てに於て歐米に劣らず、物によつては歐米以上に進步したものがあると云ふ狀態になつて來ました。加ふるに、歐洲大戰中、各工業會社は豫想外の巨利を博して、利益の積立も出來て、或は新しい機械を据付け、或は優秀な人材を養成して、技術部にも事務部にも之を配備するなど、內容を充實して所謂合理的經營を行ひ、殊に、歐洲戰後十年間の大不景氣で非常な困難に遭遇しまして、各自互に獻身的に內部を整理して、生產費の節約を圖つて、優良品を安價に而も多量に生產して、之を海外

に輸出するやうになつて來ました。

尙ほ、日本人は大に勤勉努力する國民でありますし、又、日本の勞働賃銀は歐米に比し極めて安く、且つ日本の中小工業は所謂家庭工業でありまして、これは農村又は小都會などの餘剩力を利用いたします。

是等日本特有の色々の好條件がある上に、洵に仕合せなことは、金の輸出禁止以來、爲替相場が低落して、今日の如く對米三十弗を維持して居ると云ふ、惠まれた好條件が重なり重なつて、日本の生產品は、今日恰も怒濤の押寄せる如く、世界の全面的に進出して居る譯であります。

言ひ換へれば、世界に新しく物資の需要が起つた譯でもなく、又、日本に臨時的に海外より多くの金が入つたのでもなく、たゞ外部の原因としては爲替の下落でありますが、これとても何も日本ばかりでなく、インフレーション政策を取つて爲替下落の國は澤山ありますが、それ等の國が爲替下落で繁昌して居ると云ふことを聞きません。獨り日本のみが繁昌して居るのを見ましても、日本の好景氣は決して爲替下落のみが原因ではないのであります。又、或は軍需景氣と觀る人もあります。是等も確かに原因の一部ではありますが、それのみを以て今日の好

況の原因と速斷する譯には參りません。

然らば、それ以上の原因は何かと申せば、日本人の勤勉努力、明治維新以來七十年間、政府も國民も上下一致して、富國强兵主義を唱へ苦辛慘憺して、我商工業をして、今日の如く長足の發達を遂げしめたと云ふことに歸すると思ふのであります。

二、世界に進出する日本商品

今日の好景氣と云ふものは、何を措いても日本の工業が大に發達して、輸出貿易が非常に增加したと云ふことであります。昭和七年以來輸出は、增加の一方を辿り、昨十年度は日本本土の輸出額に於て、九年度よりも更に三億二千七百萬圓も增加して、約二十五億萬圓に達しました。これは從來日本の最高記錄でありました大正十四年の本土輸出額に比しても、約一億九千萬圓からの增加であつて、日本開闢以來の最高記錄であります。單に日本貿易史上の最高記錄に止まらず、既往四ヶ年間に十三億五千萬圓も激增したことは、世界各國に比しても、實に驚くべき長足の進歩であります。

多年不景氣で悲鳴を擧げて居ました世界各國中、英米の如き昨年は大に好轉したと新聞紙上

などで謳歌されて居りましたが、十月迄の累計では、英國は前年に比し約七パーセント、米國は約一パーセントの增加で、獨逸は〇・一パーセント、佛蘭西は十二パーセントの減少であります。獨佛の如きは問題ではありませんが、景氣回復と傳へられる英米が、右のやうな狀態であるのに、日本は十七パーセントも增加して居るのであります。これで見ても日本が如何に躍進して居るかゞ分ると思ひます。

かくの如く增加してゐる我輸出貿易の內容を檢討して見ますと、昨年十一月迄の累計に於て前年同期に比し、亞細亞で一億三千萬圓、歐洲で三千萬圓、北米で一億一千萬圓增加して居ります。特に注意を要するのは、歐洲への一昨年二億の輸出が昨年は二億三千萬圓になつて居ることであります。

日本の經濟學者或は政治家中には、日本の貿易の躍進は結構であるが、世界各國が關稅の障壁或は割當制を設け、百方自國產業保護の爲め、日本品排斥政策を取るやうになつたから、日本の貿易は、今迄のやうな調子に發展は不可能だと唱へる人もあります。一應傾聽に價する議論でありますが、併しよく考へて見ますと、曾て支那が日貨排斥をやつて、日本の輸出が四億から一億に減つてしまひました。支那人や歐米人は、これで日本の經濟界は大打擊を蒙つて破

綻を來すだらうと觀測し、極力日貨排斥に努めたのでありますが、しかし何ぞ圖らん、其結果日本は印度、蘭領印度、關東州、滿洲等に發展して、今日では支那で失つた三億を取返した上に、更に一億五千萬圓も增加したと云ふ譯で、支那で日本を叩付けて大に快哉を叫んだ歐米人は、却つて自分の領域を侵され、自ら咽喉を締めるやうな結果に陷つて、今日悲鳴を擧げて、日本品を防禦しなければならぬやうになつたのであります。

丁度それと同じく、歐米が印度南洋方面の殖民地で日本品排斥を行へば、日本品はさう云ふ防禦工事を施すことの不可能な方面に、極力進出することになるのは當然でありまして、何と云ふても日本品は良質安價で、而も安いと云ふのは二割三割でなく、物によつては、五割も十割も安いのでありますから、之は防ぎやうがないではありませんか。

歐米各國も日本も自國の製造業者の立場を保護し、又、失業者を一人でも少なからしめるのに努力して居るのは事實であります。然し同時に一般消費大衆の利益保護の爲め、安くて良い品を供給し、大衆に生活上の幸福を與へることも必要であります。失業者が多いから生產業者が不平を言ふからと、それのみに沒頭して日本品に閉め出しを食はせ、大衆の利益を無視する譯には參りません。

殖民地は勿論、各本國もさうでありますから、若し日本品を眼の敵にして排斥しやうとすれば、勢ひ消費大衆から不平反抗が起り、又、殖民地は統治上困難を來すは明かであります。現に工業の本家本元たる歐洲本國に、日本の商品が二億三千萬圓以上も出るやうになつて、一昨年よりも三千萬圓、即ち一割五分も增加したと云ふことは、歐洲の消費階級が日本品を歡迎してゐる證據ではありませんか。

吾々は支那、印度、南洋、南米等に發展しなければならぬのは勿論でありますが、しかし何と言つても富の程度高く、物資を多量に消費する歐米に向つても、大いに日本品の消費を進めなければなりません。北米へは昨年は一億五千萬圓も增加して居ります。勿論生糸の騰貴が最大の原因でありますが、兎に角、北米の如き日本品に高い關稅をかけて居る所はないが、それにも拘はらず一億五千萬圓、即ち三割一分も增加したことは驚くべきではありませんか。

各國が如何に日本品防禦の高い堤防を築いても、日本品は恰も水の如く、あちらからも、此方からも、どんどん漏れて洪水となつて押寄せると云ふのが今日の實況であります。この勢を何人が阻止出來ますか、また世界各國が擧つて日本品を閉め出さうとすることは、日本品は安くて良いと云ふ非常な宣傳廣告であります。頼みもしないのに、世界中で朝から晩まで無料で

廣告して呉れるので、今まで日本品を買はうなどとは夢にも考へなかつた世界の消費大衆は、日本品がそんなに安くて良いならば、一つ買つて見やうと云ふことになるので、歐米各國の日本品排斥は、寧ろ日本から見れば、餘程有がたく感謝したい位であります。

假りに論者の言ふ如く、世界各國一致して日本品壓迫政策に出づることありとしても、日本は力を以てしても、之を突破して進まなければならぬ運命にあります。若しこの力がなければ曾て日清戰後三國干渉に會つた如く、又、華府會議で山東還附を餘儀なくせしめられた如く、空しく歐米各國の威壓に甘んじなければならぬのは明かであります。故に、日本が經濟上海外に發展せんとするにも、背後には有力なる陸海軍を必要とするは言ふまでもないことで、これは我國家の一定不變の運命であります。又、有力なる陸海軍を維持して行くには、海外貿易の發展に依つて得る收益に待つより外に途はありません。これは、殆ど相關的のものと言つてもよい位でありまして、陸海軍の維持が不可能ならば、日本は年々增加する人口を抱へて、全く自滅あるのみであります。何れの點より言つても、海外貿易の發展に向つて進まなければならぬ運命であつて、而も吾々の觀る所では、努力次第では、十分成功の途があると確信するのであります。

三、經濟界に反動恐慌は起らない

次に、日本の財政は年々赤字公債で收支を賄つて居る。これは甚だ不健全であると云ふ議論が、學者政治家の中にあるやうであります。如何にも尤の議論でありますが、これは今日の日本には、當てはまらない議論だと思ひます。

どく手つ取り早く言へば、國家の財政も會社や銀行の財政も同じことで、新しく事業を起し新しい資產が殖えれば、負債が殖えても差支ない。負債のみで資產がなければ不健全でありますが、資產も殖え負債も殖え、兩者對照して資產が多ければ、それだけ利益が多いことになり負債必ずしも不健全ではありません。商賣の經驗のない人は、借金が殖えたことに驚いて、直に警戒するでありませうけれども、借金ばかりを勘定せず、資產の方も勘定しなければなりません。

固より滿洲は獨立國でありますが、日本の今日の經濟上から言へば、一つの資產、一つの市場が殖えたものであります。これに對して年々資金を注ぎ込み、それに依つて愈々滿洲が發展し、滿洲から利益を得て來るには、少なくとも十年位はかゝりませうが、十年後に今日注ぎ込

んだ金に利益配當をすると云ふことになるのでありますから、今日滿洲と云ふ資産に對し、多少の赤字公債が殖えても、少しも不健全なものでなく、悲觀するに當らないと思ひます。寧ろ財政上から云ふと、今日は明治維新以來、始めて見る有利且つ健全な狀態であると思はなければなりません。

何となれば、過日、正金銀行頭取の兒玉氏が發表されました十年度の我國際收支狀態を見ますと、貿易は殆んど輸出輸入トントンであつて、現金の貸借に於ては、貿易外の我國の取り分が五億五千萬圓、之に對し支出が五億九千萬圓と云ふことでありますが、支出の內容を見ますと、滿洲への投資、北鐵公債の支拂、滿鐵社債の償還と云ふものが約二億八千萬圓もあり、之を支拂つて、尙ほ且つ本當の支拂ひ超過は、四千萬圓で濟んで居りますのは、實に好都合の勘定ではありませんか。

私共は貿易上の收支はどうか斯うか償ふだらうけれども、北鐵買收とか滿鐵社債償還とか、滿洲の鐵道其他に何億と投資することでありますから、日本の國際貸借は非常に赤字になるのではないかと心配して居りました。又、赤字になつても仕方がないと思つて居りました。然るに、二億八千萬圓の投資をしても、本當の赤字は四千萬圓位で濟んだことは、我國の經濟上と

しては立派な收支勘定ではないかと思ひます。これは、日本の國際貸借の收支は不健全であるとか、赤字公債の爲め日本の財政は、將來破滅に陷るだらうなどと言つて居る外國人が見れば、恐らく驚くだらうと思ひます。

日本國內でも、動もすれば外國人の說を鵜呑みにして、日本財政を悲觀的に批評する論者もなきにしもあらずでありますが、かう云ふ論者は、須く十年度の國際收支の內容をよく檢討して、安心して貰ひたいと思ふのであります。

尙ほ少しく突込んで申せば、假りに、日本が赤字公債の發行をやめて所謂健全財政の立場に立戻つて、而して、國際收支の上に日本が取勘定になつたとしてどうなりますか、健全財政論者は、それを喜ぶかは知れませんが、さうなれば、日本の爲替は段々騰つて來て、今日の對米二十九弗は三十五弗、四十弗にもなり、結局輸出貿易を非常に阻害することになりますから、健全財政必ずしも國家の利益にはなりません。

丁度この位の赤字公債を出して、この位の輸出貿易が年々增加してゆけば、今後年々滿洲に二億や三億投資したとしても、我國の國際貸借の上に大した影響なく、好都合に收支の辻褄が合ふことになる譯でありますから、國家の爲め洵に喜ぶべき事と思ふのであります。

その上に喜ぶべき現象は、從來經濟界が斯く隆運に向つて來ますと、必ず新しい會社が雨後の筍の如く簇出し、悧口な都會の企業家が權利株を煽つて、地方人が之に飛付き、さんざん苦い汁を嘗めさせられたものでありますが、今日では一般に經濟知識が發達し、過去の苦い經驗にこりて、假令さう云ふ新會社を組織しても、乘ぜらるゝ者なく、十分の基礎があつて經驗もあり財力もあり、信用もある舊い會社の增資、或は社債を歡迎すると云ふことになりましたので、舊い確かりした會社の擴張發展が容易に行はれるやうになつて來ました。

此點から見ても、既往の如き反動的恐慌の原因は失はれて居ります。もし權利株の賣買でも盛んに起れば、忽ち其方に資金が注入されて、赤字公債が消化し切れぬとか、銀行が警戒し始めると云ふことにもなりますが、今日では、さう云ふ心配は少しもありません。

又、金融業者は預金增加、低金利で相當困難を感じて居るやうでありますが、從來の如き、少しでも利廻のよい仕事に投資しやうと焦つて、不健全な貸出をするやうなことを慎み、割合に健全を主として居るやうでありますから、この點から見ても、近き將來に反動恐慌の起る心配は更にないのであります。

四、まさに躍進の好機

かく觀て參りますと、從來、日本の經濟界に於て、吾々が經驗した日清、日露戰後、若くは歐洲大戰當時の狀態とは大に異つて居るのでありまして、何れの點からしても、其の當時の如く忽ち反動的大不景氣が來て、經濟界の出鼻を挫くやうなことは決してなく、たゞ農村と都會方面の景氣に多少跛行的な所があるとしましても、又、國內に多少社會的政治的變動がありましても、この勢を以て奮勵努力したならば、なほ二年や三年で忽ち挫折するものと思はれないのであります。

かういふ狀況は、實に明治維新以來始めて際會した非常な幸運でありますから、この幸運に乘じ、我國の產業を大に隆昌ならしめ、今日の英國の輸出貿易は七十六億圓、米國は七十三億圓位でありますが、今や海軍は世界の檜舞臺に於て、日英米三國平等を主張して居ります。

私は軍備上の知識は持つて居りませんが、國民として我海軍の平等論には熱心に贊成する一人であります。同時に軍備に於て日本が對等を要求して居るとすれば、日本の貿易も亦英米對等まで押進めなくては、經濟人として甚だ恥しい譯であります。

吾々の先輩の政治家や實業家が、明治維新以來努力せると同樣の精神を以て、今後十年、十五年を期し、軍備のみならず經濟に於ても、世界の一等國たらんことを熱心に希望するものであります。國内に於ては、多少不平不滿はありましても、擧國一致勇往邁進して是非共この目的を達成せんことは、經濟人として、吾々の務めなければならない最も必要なる要點であると存じます。

世界と戰ふ日本の產業精神

一、アメリカに於ける資本家と勞働者との關係

このたびカナダ、アメリカの方を廻りまして、一番私の頭に感じましたことは、何であるかと申しますと、色々ございますけれども、その中の最も主なるものは、日本の今日は、經濟上非常に惠まれて居りまして、總ての事業が相當に利益を擧げて居ります。會社でも無配當の會社は殆ど例外でありまして、十中の八九迄は、相當の配當を致して居ります。

然るに、カナダ、アメリカの方の狀況は、全然この反對でありまして、相當の配當をして居るのが例外で、儲らないのが當り前、斯ういふやうな狀況でございます。丁度、日本に於て、三四年前、若くは、四五年前に皆樣と共に、吾々が非常に難儀致しましたやうな時代が、今日の向ふの狀況と申せば大差ないと存じます。

斯ういふやうな情勢の下に事業の經營に當つて居る者は、どういふ處置を講じて居るであらうか。吾々は、三四年、若くは四五年前に、殆ど死ぬ思をして、非常に難儀を致しまして、あの不景氣を切拔けやうとしたのでありますが、斯ういふ情勢に當つて、カナダ、アメリカの人達は、どういふことをして居るであらうかといふことが、一番最初に私の頭に響きました。

所が向ふに行つて見ますといふと、國情も違ひますし、社會の組織も違ひますし、人の考へ方も違つて居りますから、日本と同一には考へられませぬが、一番違つて居るのは、日本人とカナダ、アメリカの人達との努力の仕方であるといふやうに、私共の眼には映つたのでございます。

日本人は不斷はのらくらしたり、少々怠慢であつたり、無責任であつたりするやうな缺點がございますけれども、一朝事があると皆眞劍になつて、結束して努力する、死物狂で總ての仕事に當るといふ一つの特徴を持つて居ります。

四五年前のことを今から考へると、吾々も背から汗が出るやうな思ひが致しますので、即ちこの不景氣を克服するには、吾々は出來るだけの努力をしなければならぬといふので、殆ど死ぬ思ひをして、色々な改革をし、整理をしたのであります。その中で最も困難なことは何であ

つたかと言へば、人を減し、又は俸給とか賃銀とか賞與とかといふものを下げて、生産費を安くする、さうして、どんな不景氣が來ても、どうかこうか損失がなく、工場の經營を繼續して行くことが出來るやうにしたいといふ努力でありまして、私自身、それが爲に晝夜非常な苦勞を致したのであります。

同樣に、日本全體の工場經營家は、同じやうな苦しみをしたのであります。所が、アメリカの方に行つて見まして、その實況がどうなつて居るかと見ますと、吾々の想像して居る所とは全然反對であつて、例へば日本で申しますと、日本の勞働賃銀といふものは、御承知の通りアメリカの十分の一、若くは、十四五分の一位で、非常に安い。殆ど生活費と言つてもよい位の極く低廉な勞働賃銀でありますけれども、あの不景氣の際には、ノミナルの賃銀を下げるといふことは、各社とも致しませぬでしたけれども、或は手當を減すとか、或は賞與を減すとか、色々の手段を以て實質上の勞働賃銀を下げて居ります。又人間も非常に減少致して居ります。

所がアメリカでは、カナダでも殆ど同樣でございますが、工場が困難するからと云つて、勞働者が自分の賃銀を下げるなどといふことは、夢にも考へられない。工場の經營が困難であるのは、經營者の責任である。經營者の經營が惡い。工場が困難するからといふので、勞働者の

賃銀を下げるなどは以ての外のことである。工場經營が困難であるから、人を減すなどといふことは以ての外のことである。それは全然勞働者の關知する所でなく、經營者の責任であるといふのが向ふの資本家と勞働者との關係であります。

二、日本の資本家とアメリカの資本家

又、資本家の方でも色々努力はしますけれども、自分の責任だけの努力を盡せば、それから先は、もう自然の運命と諦めて居るやうであります。でありますから、或る程度迄努力するがその努力の結果、どうしても工場を維持することが出來ないといふやうな場合には、直にこれをレシーヴアーの手に移してしまふ。レシーヴアーの手で經營すると借金の利息も拂はない、元金も拂はない、資金の滯りも拂はなくてよいのでありますから、どうかこうか工場の經營の繼續が出來る。それでも繼續出來なければ、競賣にして工場を閉鎖してしまふ。斯ういふ順序になつて居るのであります。

日本では工場を閉鎖するとか、若くは、レシーヴアーの——破產清算人の手に工場を渡すといふやうなことは、命のある間はしたくない。如何にしてゞも、死ぬ思ひをしてゞも工場は經

營して行きたいといふのが、日本人の心理狀態でありますから、それが爲に隨分無理を致します。その無理をした結果、色々の事件が起つたり、或は法律に違反したりするやうな弊害もありますけれども、兎に角、日本人は死ぬまで工場を閉鎖したくないといふやうな心理狀態であります。

アメリカ、カナダの人達は、或る程度迄努力をすれば、それから先は、もう自分の責任でないと諦めてしまふ。私はこれを始終戰爭に例へて居ります。戰に於ても、日本人は戰つて〳〵戰ひ拔いて、百計盡きた時には仕方がないといふので腹を切つて死んでしまふ。これが日本人の心理狀態である。併ながら、ヨーロッパ人又はアメリカ人は、自分の義務を盡して、百計盡きて、もうこれ以上仕方がないといふ時には敵に降伏する。降伏することを恥としないといふ心理狀態であります。

軍人としての心理狀態が、それ程違ふやうに、事業經營の方に於ても、それが明瞭に現れて居るやうであります。この不景氣の際に經營家の努力の程度が、非常な違ひでありますから、假に、アメリカが、この不景氣を克服して、今後非常に隆盛な時が來るとしても、工場內部の整理とか緊縮といふやうなことは吾々が日本で行つたやうには行へないであらうと思ひます。

即ち、井上財政の時分に吾々は死物狂ひで工場の整理をして生産原價を引下げました。或は二割三割四割といふやうな具合に生産原價の引下が行はれたのでありまして、吾々の製紙事業などでは、平均して約三割生産費が減つて居ります。生産費を三割下げるなどといふことは、平常出來ることぢやない。どんな機械を發明しても、どんな合理化をやつても、五分か一割生産費を下げることが出來れば大したものである。然るにあの際は三割生産費が下つて居つた。

今日、日本の景氣をインフレ景氣と申したりしますが、私共は、今日の日本の景氣は決してインフレーションの爲ぢやないと思ひます。又、これを軍需景氣だとか、或は爲替の低落に起つた景氣だとか、新聞雜誌などに折々出て居りますけれども、斯ういふやうな觀方は、所謂皮相な觀察でありまして、私共は全然同意が出來ない。吾々の信ずる所は、井上財政の時分に死ぬ思ひをして生産費を約三割も下げ、總てのものを整理緊縮して、内部の秩序が整つて居つた所へ、この軍需景氣とか爲替の低落といふやうな鳴物が入つて來たから、この好景氣が生れたのであつて、決して單にインフレーションや、軍需景氣の爲に斯ういふ狀態が生れたものではないと思ひます。でありますから、若し今後、アメリカで景氣が回復しても、生産費を下げるとか、工場内部の整理が、日本のやうに行はれて居りませぬから、アメリカの工業なり産業は

日本のやうに好景氣には惠まれないであらう、斯う推察したのであります。

これが私の見ました日本とアメリカとの相違する最も重大な點であります。

三、工場經營に於ける日本人の特徵

それに關聯して考へて見ますと、これは私の平生工場經營に付て考へて居ることですが、どうも日本人とアメリカ人との物の考へ方が違ふ。吾々日本人の方では、精神的に物を考へ、精神的に實行して行くといふのでありますけれども、アメリカ人などは、多く物を物質的に考へる。例へて申しますれば、日本では勞働者を傭ふ時に、『お前は幾らの收入を希望するか』と言ひますと、肚の中では色々考へて居つても、『自分の收入に付ては希望はありませぬ。生活が出來さへすれば宜いから、貴方の御眼鏡で然るべく……』斯う言ひます。御眼鏡で然るべくと言ふのだから、勝手に給料を決めてやる、それで氣に入れば滿足するし、不服であれば、『自分等はこれだけ働いて居るのに主人は吾々の志を知らぬ。不明だから分らないのだ』斯ういふことになる。これがアメリカ人でありますと、『私は月給百圓なければやつて行けませぬから百圓貰ひたい』と言ふだらうと思ひます。

日本人は、金で總ての問題が解決するといふ譯に行かないのでありまして、或る場合には、金などは超越して、『貴方の爲なら一身を拋つ』といふやうな人も出て來る。例へば、四五年前に勞働者の方から進んで、『工場を閉鎖することには代へられないから、出來るだけ自分等は我慢をする。自分等の收入は減つても宜いから、どうぞこの工場を繼續するやうに、會社の爲になるやうに一つ御心配を願ひたい』といふやうなことを申出て居る例が澤山あります。また、會社の方からさういふ風に仕向けたのもあります。工場主の方から命令する。或は工場主の方から相談して、『これだけで我慢して貰はなければ會社が立ち行かないから』と話をして、さうして、それに同意したといふのもあります。

兎に角、さういふ具合に、此方の仕向け方が好ければ、即ち、その人の顏を立て、その人の心持をくんで、旨く導いて行けば、或る場合には金錢を超越して、自分の命も差出して會社の爲に働かうといふやうな、實に美しい心持があります。けれども、アメリカやヨーロッパの工場主と勞働者との間には、さういふ精神は毛頭あるまいと、私は見て居ります。でありますから、使ふ方も容易でないが、使はれる方も容易でない。中々困難であります。

四、日本人の持つ精神力

又、仕事に當りまして、ヨーロッパ人は非常に自分の職務を重んじ、義務を重んずるので、この點が特徵でありますけれども、自分の義務を盡してしまへば、それを一歩超越してしまへば、もう忘れてしまふ。

例へば、アメリカの太平洋沿岸の日本人の店に白人が使はれて居る。工場では、白人の方も主人と召使の關係でありますから、十分に義務を盡しますけれども、今度道路で會ふとか、或は公園で出會しても知らぬ顏をして居る、その時は、もう主人と使用人との關係がないのだから、日本人に御辭儀をする必要はないといふやうな氣分であります。

そこで、一面考へて見ますと、その日本人の氣分といふものが仕事に當つて、例へば、昔の職人氣質といふやうなものを調べて見ると、皆命懸でやつて居ります。彫刻師なら彫刻師が、自分の藝を學ぶといふことになると、殆ど師弟の關係は、金錢や利慾を超越した一つの美しい精神的の關係になつて居ります。だから、その師弟の間では、命の取りやりをするといふやうな例も澤山あります。

即ち、自分の仕事を學ぶといふことになると、皆命の取りやりで眞劍であります。昔の名人氣質は、皆それであります。一つの面を彫刻するのでも、自分の全精神を打込んで、命懸で作るから、その出來た面は躍動して居る。畫を描くのでも、自分の精神を打込んで描くから、本當に動物なら動物になつて描くから、その描いた畫は躍動して居ります。鷄を描けばその鷄は飛んで跳ねて居るやうに見える。刀を作るのでも、その刀は金錢の爲に作るのぢやない。自分の精神の爲に作る。一つの理想があつて、その理想で以て自分の魂を打込んで作るから、出來た刀には、その精神が籠つて居る。これは、封建時代に出來たのぢやないのでありまして、鎌倉時代、或はそのずつと以前から、さういふ氣風が日本人の血液の中に流れて居るのであります。

こういふ日本人でありますから、今日でもいざ一大事といふことになると、全精神を打込んで、命懸で仕事をするといふやうなことが現はれて來るのであります。この心持が、アメリカ人やヨーロッパ人には絶對にないと思ふのです。それで一寸外觀から見ますと、忘けて居つたり、時間を守らなかつたり、自分の職務を盡さなかつたりといふやうなことで、アメリカ人などに比べて、日本人は非常に缺點があるやうに見えますが、さういふ點から考へて行きますと

日本人はアメリカ人やヨーロッパ人の到底及ばないやうな、一種の精神的の力を持つて居る、斯う考へられるのであります。

五、日本主義で世界に進出せよ

私が今度の旅行で沁み〴〵考へましたのは、吾々は今迄これに氣が付かなかつた。日本の工業も矢張りヨーロッパを學んで、一にもヨーロッパ、二にもヨーロッパといふことで、總て外國の物を手本にして學んで來た。さうして現在では、日本は世界に躍進し、殆ど世界を風靡するといふやうな勢ひである。此處で振返つて見て、この日本の躍進といふものは、將來永久に續くものであるか、又は一時的のものであるか、斯う考へますと、先刻申しました通り、若し日本の今日の景氣が、インフレーションの爲であるとか、或は軍需工業の爲であるとか、或は爲替の低落の爲であるとかといふことであれば、このインフレーションが止めば、景氣は元に戻りますし、軍需工業の爲であれば、軍需工業が止めば、又、元に戻ります。

併しながら、私は前申上げました通り、この日本の景氣といふものは、日本人の精神的の力が本になつて居ると思ふ。精神的の力で、今吾々は世界に進出して居るのであると致しました

ならば、インフレーションが止みませうが、軍需景氣が止みませうが、爲替の低落が止みませうが、この吾々の世界に進出して居るのが挫折するといふ氣違ひはない。どこ迄も吾々は、世界に突進して行くことが出來る。斯ういふ結論になるのであります。

一例を申しますれば、私共が十二年前にアメリカに參りました時には、フォードの工場經營は、世界の工場經營の合理化の手本であつた。フォードを工業家の神様のやうに考へた。日本でもフォードは偉い者だといふことになつて居りましたし、ヨーロッパに行きましても、何處の國に行きましても、皆同様に感じて居つたのであります。所が、今考へて見ますと、日本の自轉車工業が發達して、世界のどの國に行つても、日本の自轉車のやうな立派な物があんなに安く出來る所は、何處にもないといふことになりまして、世界到る所、アメリカでもヨーロッパでも、日本の自轉車に征服されて居る。アメリカなどは、十割の課税をしてもまだ日本の自轉車が入つて來るといふ有様であります。

何故に日本の自轉車が世界に雄飛するのであるかと、調べて見ました所が、この自轉車の製造方法は、期せずしてフォードの仕事の仕組と全然同じである。唯フォードのシステムが、日本式に旨く當嵌つて行はれて居るだけでございます。

皆様の中には、自轉車會社に御關係の方が御ありになるかも知れませぬが、會社の方で原料は研究する。例へば、自轉車には強くて轉い金でなければならぬ。さういふ材料にはどういふ鐵が好いといふやうなことは、會社の幹部の方で十分に研究するけれども、今度これを製造するといふことになりますと、これは專ら名古屋邊りで行はれて居るのでありますが、ハンドルならハンドルだけを下職に出す、今度はベルだけを出す、サドルはサドルだけ出す、護謨は護謨だけ、針金は針金だけ、皆專門に家庭工業に出す。原料は會社から供給してやる。詰り民間の餘剰動力と言ひますか、農民の餘剰動力と言ひますか、これを利用して、家庭工業で安く造る。會社ではこれを集めて組立て、さうして立派な物に仕上げて出すのでありますから、フォードのシステムと少しも違はない。併し、これはフォードのシステムを眞似したのぢやない。日本人が獨自に考へたものであります。

斯ういふ風にして製造するものでありますから、原價が非常に安い。若しこれが大工業組織などで、ヨーロッパ人の拵へるやうなことをやつて居つたら、十割の課税をされてアメリカに行つて競爭出來る譯がない。本當に日本の實情に當嵌つたやうな、確かな製造方法を執つて居りますから斯うなるのであります。これは一例でありますが、さう考へますと、フォードは決

して神様でも何でもない。吾々日本人の中にフォード以上の考へを出して、斯ういふ仕事をして居る人が幾らもあるのであります。だから、フォードを工業の神様のやうに考へたのは吾々の間違ひであつた。吾々日本人の血液の中には、それ以上に偉い智慧が流れて居るのでありまして、フォードは、アメリカの實情に適した組織を考へたが、吾々は日本人に適した組織經營を考へて、斯ういふ拔んでた仕事をして居るのであります。

さういふやうに考へて見まして、私は近頃、吾々はヨーロッパ人に追ひ付きたい〳〵といふので、その眞似をして來たが、振返つて見て、吾々はヨーロッパの眞似をしてはいけない、これからは矢張り日本式に行かなければならぬと思ふのであります。

總て日本式に、日本精神で、日本主義で行きたい。最初に精神的のことを申上げましたが、精神的に於ても、技術的に於ても、何れの方面から見ても、今日はヨーロッパを模倣する時代ぢやないと思ふ。これからは日本式で日本精神で、新に總ての經營なり技術なり、或は販賣なりを考へて、さうして世界と戰つて行くといふことにすれば、假令インフレーションが止んでも、軍需景氣が止んでも、爲替が元に戻つても決して吾々はヨーロッパに負ける氣遣ひはないと思つて、今度の旅行でます〳〵その考へを强くして歸つたやうな次第であります。

産業日本の進路

一、躍進日本の産業と産業費の擴充

本年度の最大問題は、果して何か、それは矢ッ張り財政問題であらう。その中でも最も重大な事柄は、陸海軍の軍備擴張費がどうなるか、從つて、赤字公債がどうなるかと言ふ問題であらねばならぬ。

國家財政の調整按排は、本年においても、又十一年度豫算の如く、一時的かつ姑息的な彌縫を以つて、編成し得るや否やは意見の岐れる處で、この問題の解決は、實に緊要事である。

私の見る處では、十一年度豫算が兎も角も成立し得たのは、高橋藏相の個人的力の賜として、この點大いに敬意を拂ふものではあるが、畢竟、一時的に彌縫的意圖の下に成立したものと言はざるを得ない。斯かる姑息政策が將來にも續いて繰返す事が不可能なるは勿論、邦家の

進運に伴つて、必要な行政上並に外交上の諸經費が、殆んど顧みられなかつたことは國家の爲めに面白からぬは言ふまでもない。

我商工業は、日と共に非常な勢を以て隆昌に向ひつゝあり、輸出貿易の如きは過去三ヶ年間において、實に十億圓餘の激增を示したが、更に今後三ヶ年間にも、十億圓否十五億圓もの著しき增加が期待される。

斯くて我國の產業發展は、世界の驚異的對象と迄なつてゐるのであるが、一面我國產業が、斯くも破竹の進步を遂げ、この躍進を重ねる爲めに、また更に進んで將來の進步の爲めには、現在將來に亙つて巨額の資金を必要とせねばならぬ。

即ち、將來において、益々新機械、新設備、新研究を要すると共に、將又、新人材の養成に努むるにおいては、我產業界の進展には、更に驚異的な結果が期待し得られる事と思ふ。

產業界に身を置き、產業界の事情は細大知悉してゐねばならぬ筈の我々でさへも、近年における我產業の發展には、驚異の眼を見張らざるを得ない。

しかく驚くべき發展を遂げたる、我が產業界の現狀を考へるとき、我國行政上、又は外交上なり、其他政治組織の上において、年々新規豫算を削減し、新規事業を許さず、新研究も爲さ

しむる事なく、政府がこの產業躍進の機會を捉へて、これを助長せしめることなく、却つて消極的豫算を以て、進步の輪にブレーキを掛けてゐることを痛感するのである。

事情斯くの如くであるから、兎角政治的進步なしとか、或は外交政策の拙劣とかと非難の聲を放つは、或は非難する方にも無理があるのではないかと思ふ。

產業上により多くの新資金を注ぎ込み、行政上外交上にも、より多額の豫算を許してゐたならば、我國はモツと躍進を遂げてゐたであらうことは想像に難くない。これが出來なかつたのは、畢竟滿洲事件、或はワシントン條約の廢棄通告と言ふやうな我國の對外的諸情勢の變化、即ち、所謂非常時に際會して、軍事に多額の經費を要したゝめで、蓋し、已むを得ない處であつた。

若し、平常の狀態においてゞなら、恐らく今日では、早や我國財政の基礎は鞏固のものになつてゐたことであらう。

併し、それは兎も角として、陸海軍費の擴張繼續の結果、我國陸海軍は、最大の進步を遂げ、今や眞に世界の最大强國たるの實力を完備してゐる。それは、恰も我國產業が眞に世界最大國に伍して劣らざるが如く、否或はそれ以上に最大强國となつてゐることと信ずる。之は邦

家の爲め寔に慶賀すべできあるが、振返つて見るならば、爲めに外交上政治上の進歩が犠牲となり、尠くもそれ等の進歩が一時的とは言へ中絶の實情を呈してゐるやうな事はあるまいか。これを我國全體より見るならば、斯かる實情もしありとすれば、決して長く打棄てゝ置いて、いゝ筈はない問題であらう。

私は昨年カナダ、アメリカ方面を遊行したが、其の時我國では人口が過剰である上に、天然資源に乏しい爲めに、國民が一般に勤勉であり、且つ、最も經濟的に生活してゐる事を痛切に感じた。

この事は慥かに日本人の特徴であり、これあるが爲に、我國の陸海軍が諸列强に比し、極めて安い費用をもつて、世界最高の水準に到達し、同時に、又産業も廉價良品の下に、世界市場を席捲し得たのである。

さりながら、この産業躍進、貿易增進に連れて、近時勞働賃銀はます〳〵上昇し、一般使用人に對する俸給、手當、賞與なども漸騰步調を示してゐる。

從つて、國民一般の生活基準も向上しつゝあるは、必然の成行きであり、今日の情勢より判斷すれば、將來も國民一般の生活水準は、いよ〳〵高まつて行くに相違なく、又、我々産業に

從事する者の立場よりすれば、勞働者及び使用人への諸種の報酬を、更に〳〵引上げて彼等の幸福增進に努むるの準備がなくてはならないと思ふ。

二、官吏の待遇改善と增稅

斯く考ふる時、一つの問題として取上げねばならないのは、官吏全體の俸給のみを現狀の儘にして置いて、いゝかどうかと言ふ事である。

アメリカを見るに、勞働賃銀と官吏の俸給との釣合は、日本と同じ樣に互に均衡を保たれてゐるから、一方を引上げて他方を引上げない譯には行かない。

日本の官吏も、數年前に井上藏相の二割減俸に遭つたまゝ、今日に及んでゐるが、日本官吏は歐米に比し、又其他民間に比するも、決して好遇を受けてゐるとは言ひ得ない。眞の生活維持の上に、漸く間に合ふ程度の僅少な支給をしか受けてをらず、下級官吏の如きは、生活にも足らない程、貧弱な支給を受けてゐるに過ぎない。

斯かる現狀は、先年一律に二割減俸を行つたことに禍根を有つもので、當時各方面に不平の聲が高かつたのは、世間周知の事實であらう。然るに、我が官吏が專心職責に努め來たつたの

は、畢竟本然の武士道氣質から、邦家の爲めに忍んで來たのであり、所謂武士は喰はねど高楊子の觀念流露の結果である。

斯かる日本官吏の美點に對しては、國民たるもの感激せざるを得ない處であり、産業界には漸く俸給が復活されてゐる今日においては、何を捨て置いても、官吏の俸給を復活せしめる事が緊喫事であらねばならない。

今にして、この問題を解決せしめざらんか、延ひて官吏の思想上にも面白からぬ影響を及ぼし、我國の美風が根柢的に破壞されざるやを虞れるものである。

如何に武士氣質的な美風を持つ官吏と雖も、苟も現代人として、文明生活を爲さんとするには、それ相應の支給を受けねばならぬ。官吏なるが故に、何時迄も自己の生活を無視して、邦家の爲めに働けと言ふのは、甚だしい無理であり、一般國民もこれを默視する事は出來ない。

從つて、産業がます〳〵榮え、この方面より生活程度を引上げて行くなら官吏俸給も速かに還元し、更に進んで從前のもの以上に增額すべきであつて、この問題は是非共本年度には解決すべきであつて、明年度へ繰越して考へると言ふやうな、餘裕のある問題ではないと思ふ。

扨て、この問題を解決するとせば、これに附隨して、何よりも先きに遞信勞働者の狀態を改

善せなければならぬと考へる。

私の聞く處では、內務省などでは頻りに民間勞働者の待遇改善を奬勵されてゐる。この當局の趣意の存する處には、我々は大いに敬意を表して已まぬが、我國勞働者階級中、最も悲慘な狀態にゐる勞働者を調査して見ると、遞信勞働者を第一に指摘せねばならない。遞信勞働者に比較すれば、鐵道省關係の勞働者などは、比較的惠まれてゐるが、この不遇勞働者を救濟する爲めに、遞信省では特別會計を設け、その收入增加で、待遇改善に心懸けようとしてゐられる。これは誠に喜ばしい事であるが、政府豫算の都合で、その特別會計が若干削除され、一般會計へ振向けられるため、遞信省としても、結局意の如く爲し難いやうに見受けられる。

若し、政府が勞働者の生活向上を叫び、彼等の賃銀增額を希望さるゝならば、先づ政府部內より手を染めらるゝべきと思ふ。

民間勞働者の待遇改善は、民間で行ふべきで、政府が政府部內勞働者の生活向上を放置して、民間勞働の窮迫をのみ非難さるゝは酷と言ふもので、我々としても、正直には承知し難い。故に若し、眞に勞働者の幸福增進を期するならば、先づ以て遞信勞働者の改善が急務と思ふ。

而して、更に進んで各種の官業勞働者の待遇を向上し、同時に民間勞働者に、それを及ぼすのが順序である。

然るに、歴代内閣の爲し來たつた處は、この官業勞働者を打ちやりにして、民間勞働者のみの待遇改善を主張さるゝ傾きがあるが、これは全く本末を顚倒した遣方と言はねばならぬ。而して、無理に法律を制定し民間を束縛しようとするが、これが我々民間の承服し能はざるは勿論の事で、動もすれば民間の反抗意識を擡頭せしめんとする主要原因でもある。

吾々は決して、政府が率先して斷行せざれば勞働者の待遇を改善せずと謂ふものではない。否、政府の處置如何に關せず、民間は民間にて進んで勞働者の待遇を改善して、以て眞の勞資の協調を計り、日本精神的産業平和を確立せんことを理想とするものである。唯、併し政府が自ら責むべきを責めずして、而して單に民間にのみ種々の難題を要求せんとする態度に付、若干の批評を加へんとするものである。

然らば、何故に政府が、斯く本末顚倒の態度を以て臨むかと言へば、所詮その依つて來たる原因は、豫算關係にあると思ふ。凡て豫算問題が引かゝり、日本全體の發展を阻止してゐるのであるが、此處に至つて見れば、官吏俸給復活の急務なる如く、同時に官業勞働者の生活改善

も、正に等閑に付し難い重大問題である。この爲めに果して幾千萬圓を要するかは判らぬが、この狀態を放置する事は、邦家の爲め寔に由々敷問題と信ずるものである。

斯く考ふる時は、十二年度豫算を編成するに際しては、十一年度豫算の如き、一時的彌縫策を弄する事は、高橋藏相と雖も爲し難い事と思ふ。假令、藏相の聲望を以てするも、恐らくは不可能ではあるまいか。

果して彌縫策を放棄するとせば、當然問題となるのは、所謂增稅か否かの問題であらう。事實、私は本年度には、增稅問題が我國家財政の中心問題になるものと思ふ。

增稅に關しては、私は反對もせず、と言つて無謀な增稅を歡迎するものでもないが、兎に角、本年こそは、增稅により我國財政を根本的に改善し、以つて國家の進運に似はしい如くに、豫算編成を行ふべき年と考へる。

三、滿支開發は國民の義務

滿洲國は、漸次治安恢復し、一般行政も整備されつゝあるは、寔に同慶の極みで、滿洲國政府及び我軍部に對し、多大の敬意を表するものであるが、さて、いよいよこれから滿洲國は經

濟的發展への時代に入るのであつて、今後それが爲めには我國より多大の新資金を供給しなければならぬと思はれる。

現に、滿鐵より新規に投下された資金が、五億圓以上に達してをり、滿鐵の斯かる犧牲的努力に對しては、我々國民としては、感謝の外なき次第であるが、果して今後何時迄も、その努力と負擔を滿鐵のみに依賴すべきであらうか。須らく、今後は國民全體の力で、大いに新資金を放出すべきの秋である。

滿洲國は、なほ草創の國家であり、將來も幾十億の資金を要求しつゝあるが、我々國民の手で、これが新資金を支出し、同國開發に努力を致さなければならない。恰も、これを純經濟的立場から考へるならば、新會社を設立する如きもので、其の新會社が、收益時代から配當可能時代を迎ふる間、少くも十ケ年間は、投資を繼續して行かねばならない。而して、十年後に配當を開始し得れば、先づ新會社としては、最良の成績と考ふべきで、この間の無配當時代は、當然隱忍自重しなければならぬ。

日本國民としても、この長年間の隱忍自重は、蓋し苦痛とする所であらうが、滿洲國將來の爲めに、堪へ忍んで、投資の手を緩める事があつてはならない。又、日本人たるもの、これ位

の覺悟がないとすれば、國家百年の大計は遂行し難いと考へざるを得ない。これは丁度、我々の負擔する納稅義務と同樣である。この負擔を滿洲國に負ふ上に、我々國民は今後、又北支に對しても、同樣の義務を負擔しなければならない。

北支自治體が出來上れば、これは我國の經濟上より見る時は、孫會社にも相當するもので、無論滿洲國は、獨立國家で、尙更北支は獨立の自治體であるが、日本國民としては、滿洲國と同じ程度において、孫會社たる北支の經濟的發展に努力する必要あるは勿論である。北支にも、又矢張り將來數億といふ巨額の資金を必要とし、同地方は國土大きく、人口も多く、且つ資源も豐富ではあるが、活用すべき資本が缺知してゐるのである。これに對する資本は、日本の投資にまつ以外に方法はなく、國力榮え買易發展を示してゐる我國と雖も、かく大金を投資せねばならぬ事は、我國經濟人として負ふべき負擔は決して尠少とは爲し難い。

斯かる經濟上の重大問題を如何に解決すべきかに就いては、關東軍司令部、陸軍の北支駐屯軍司令部の人々も、大いに考究されるべき必要があると思ふが、同時に、我々經濟人としては、如何にこの重荷を負つて開拓して行くべきかが重大問題である。

斯くて內にあつては、增稅により財政を如何に調整すべきか、外にあつては滿洲國及び北支

の經濟的發展を如何に達成せしむるかゞ、日本國民の最大關心事であると考へる。

若しも、今日において滿洲國の基礎が漸く鞏化しつゝあるに拘はらず、その經濟的發達が出來ないと言ふが如き事は、日本國民の恥辱とせねばならない。北支も亦然りで、日本國民としては、東洋平和確保の見地よりしても、滿洲國及び北支の經濟的發展を促進せしむるは、畢竟世界平和への貢献である事をも忘るべきではないと考へる。（完）

◇編輯言◇

◇昭和十一年度の第二冊！

◇著者藤原銀次郎氏は王子製紙の社長として製紙界の獨占王。現下我國財界に於て、其の滿々たる闘志と、氣慨と、其の握把する透徹せる經濟指導理論とは、金儲け一點の實業家と類を異にする點に於て、一種の風格を有する國家的事業家であり、一個の人物である。カケ引に長じた實業家ならゴロ〳〵してゐるが、エキスパートといふものは、さうザラにはあるものではない。此の意味に於て、特に乞ふて『産業日本の進路』なる本書を出したわけであります。現下の經濟界に對する藤原氏の檢討は、讀者に多くの知識を與へるであらう。

◇目下發賣中の高橋是清翁著『半生の體驗』は非常なる好評、誰もほんとうに聞いて見たい翁の前半生の體驗談と、それより割り出された處世訓とは、讀む者の人生觀をうちたてゝ處世上の心構へを決定さすに充分なものがあり、此點に於て、各方面より申込殺到、團體注文多數に上つてゐます。

◇本社パンフレットは、內容充實と、權威向上、筆者選擇の三點に常に萬全を期して、毎月三冊良いものを出して行きます。直接購讀の希望者は直接御申込下さい。

産業日本の進路　（No. 43）

定價十錢

昭和十一年一月二十六日　印刷
昭和十一年一月三十日　發行

著者　藤原銀次郎

發行兼印刷人　伊藤隆文　東京市芝區田村町四丁目十八番地

印刷所　三陽堂青野印刷所　東京市芝區田村町四丁目二番地

（不許複製轉載）

發行所　今日の問題社

東京市芝區田村町四丁目十八番地
電話芝（43）三〇〇七番
振替東京五九七四八番

大取次

東京鐵道局公認　鐵道保養會（鐵道各驛ホームスタンド一手販賣）
鐵道弘濟會・鐵道援護會
森田書房・富章新聞店
啓德社・上田屋
新正堂（京阪神一手販）
川瀨書店（名古屋）

◇今日の問題社刊行書目◇

古澤磯次郎著 海軍豫備會商決烈せば？ 價一〇 送二

清水盛明著 近代國防とソヴェート・ロシア 價一〇 送二

陸軍パンフレット 經濟戰略・思想戰略 價一〇 送二

秋定鶴造著 政局はどう動く？ 價一〇 送二

松山二郎著 農村はどうなる？ 價一〇 送二

高橋龜吉著 インフレーション下の金融財政はどうなる？ 價一〇 送二

阿佐隆夫著 景氣は廻る 價一〇 送二

海軍省梅崎中佐著 五・五・三廢棄をめぐる列國の動向を繫る（絕版） 價一〇 送二

陸軍パンフレット ロシアは如何にして極東に迫るか 價一〇 送二

陸軍パンフレット 重壓下の日本と國防の强化 價一〇 送二

阿子島俊治著 內閣審議會とは何をする所か 價一〇 送二

蓑田胸喜著 天皇機關說を爆發して國民に訴ふ 價二〇 送二

永松淺造著 滿洲國皇帝を語る 價二〇 送二

松下芳男著 軍部前線に躍る人々 價一〇 送二

野田豐著 株式界の前途 價一〇 送二

楠公研究會編 密寶大楠公の遺訓書 價一〇 送二

熊崎健翁著 運に乘る法 價二〇 送二

蓑田胸喜著 一木枢相牧野內府の僧冒思想を糾彈す 價一〇 送二

松下芳男著 軍部を裏から覗く 價一〇 送二

國防研究會編 列强は如何にして支那を食ふか 價一〇 送二

小林住男著 軍部の系派・動向（絕版） 價一〇 送二

高橋是清著 處世一家言 價一〇 送二

藤田信道著 東京附近夏山の旅 價二〇 送二

野田豐著 投資・利殖の必携 價一〇 送二

永松淺造著 豐太閤の處世術 價一〇 送二

松下芳男著 林銑十郎と眞崎甚三郎 價一〇 送二

村田清太郎著 重臣ブロックの正體 價一〇 送二

菅原節雄著 陸軍の智腦九人男 價一〇 送二

金子堅太郎著 日本憲法の精神 價一〇 送二

松下芳男著 川島義之と渡邊錠太郎 價一〇 送二

小林順一郎著 軍部と國體明徵問題 價一二 送二

小林澤知治 ジヤクソン式强體健康法 價一〇 送二

◇今日の問題社刊行書目◇

三島康夫著 制裁下のムッソリーニ沒落か 價一〇 送二

松下芳男著 荒木貞夫と阿部信行 價一〇 送二

片倉藤次郎著 日本はイタリーを支持して英米の壓迫に備へよ 價一〇 送二

長谷川了著 裏から見た歐洲の外交戰 價一〇 送二

村田攸郎著 北支獨立運動の眞相 價一〇 送二

林勇造著 政局線に於ける軍部の動き 價一〇 送二

天沖鄕嘯著 蔣政權の行方と迫れる日英戰爭 價一〇 送二

小泉二十著 外交陣をめぐる軍部と外務省 價一〇 送二

久原房之助著 國體宣揚と重臣ブロック 價一〇 送二

經濟問題研究會編 サラリーマンは何處へ行く？ 價一〇 送二

三島康夫著 日支衝突必然論 價一〇 送二

石山賢吉著 金持に學ぶ 價一〇 送二

高橋是清著 半生の體驗 價二〇 送二

藤原銀次郎著 產業日本の進路 價一〇 送二

野村京太郎著 軍部・官僚・政黨 價一〇 送二

◎既刊書御注文は、すべて前金にて御願ひ致します。御申込は本社直接又は最寄賣店へ。送金は振替又は郵便切手のこと。

高橋是清翁二大名著

新刊

半生の體驗

高橋翁の半生の體驗談だけは、誰もが、しみ〴〵と聞いて見たいと思ふであらう。今日までに斷片的には傳へられてゐるが、ほんとうに、あの苦難、曲折、しかも貴重なる翁の身を以て體得せられた直話は語られたことがない。本書ではこれを、あゝいふこともあつた、こんなこともあつたと、ポツリ〳〵と語つて居られる。一代の名著、それだけに、一氣に讀まづには居られない。

四六判・清裝
定價二十錢（送料四錢）

百版

處世一家言

翁の體驗から割り出された貴重なる處世訓であり、サラリーマンへの注意書として、出版以來日本全國を風靡した書である。これまさに國民讀本として本書以上のものはあるまい。人を使ふ人は、これを社員や店員に讀ませずに置いたら大きな損をする。人に使はれてゐる者はこれを讀まなかつたら出世のチヤンスを失ふ。今すぐ申込め!!

（四六判・六十四頁・並製　定價十錢（送料二錢））

今日の問題社
東京市芝區田村町四の十八
振替東京五九七四八番

時代に應じた藥と感服

陸軍中將　堀内文治郎閣下

年のせいか、近來少し無理な仕事をつゞけると、頭の調子がどうもはつきりしない。仕方がないので頭痛藥を用ひて見たが、腹工合を惡くし、食慾に障るので困る。そのため、餘程不快の時でないと服まないことにして居るが、友人に「はれやか」を熱心に勸めるものがあり、從來の頭痛藥と五十歩百歩の考へでゐたが、頭の榮養になる藥だといふので、一週間ばかり續けて服んで見た。なる程爽快といふか、明朗といふか仲々頭の調子がいゝ。それに、便通が非常に良くなつて大變心地がよい。世の中が進んで來ると、必要に應じて良い藥が考へ出されるものだと、感心してゐる次第である。

因に「はれやか」は胃腸や心臓を害ひ勝な一時的銀耳類とは異なり服めば服む程頭に一番大切な燐、カルシウムの榮養分を補給して、頭の病氣を病原から治癒に導く最も進んだ頭の藥で專門家や頭を使はれる方々から推奬されるのも故なきではありません。

販賣元　東京・銀座　日獨醫化學研究所

はれやか

ダイヤモンド社長　石山賢吉著　定價十錢（送料二錢）

金持に學ぶ

（新刊）

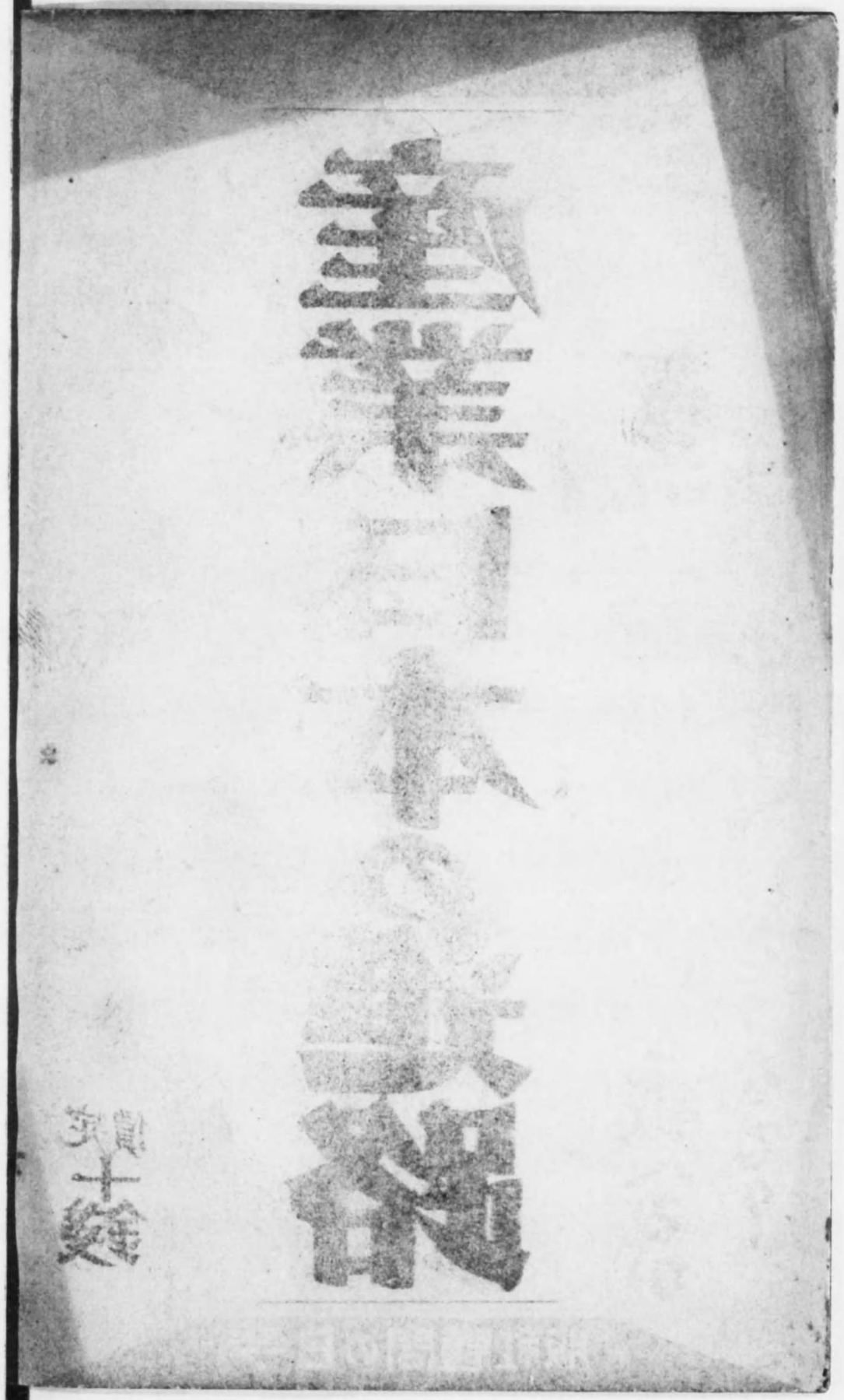
本書中に登場する人物

福澤桃介。團琢磨。三井家。岩崎家。安田善次郎。莊田平五郎。藤原銀次郎。武藤山治。古河市兵衛。津田信吾。小林一三。福島浪藏。杉野喜精。淺野德一郎。

金をためたい人
金を儲けたい人
事業に成功したい人
出世をしたい人
は是非一讀すべき書である

此の書は、世の金持に共通な心理と要素を拾ひあげて、彼等はどうして金を殘し、立身成功したかを研究したものである。そうして世の金持といはれる人々の、私生活、事業生活は、どんなにやつてゐるかを紹介したものであつて、讀物としても面白い。著者石山さんは、『金持はケチである』と斷じてケチといふことゝ金と人生とを說いてゐる。面白い本だ!!

今日の問題社　東京市芝區田村町四の十八　振替東京五九七四八番



終